

令和6年度 財政状況資料集

総括表（市町村）

都道府県名	千葉県		市町村類型	IV-3		指定団体等の指定状況		区分		令和6年度(千円)		令和5年度(千円)		区分		令和6年度(千円・%)		令和5年度(千円・%)			
						財政健全化等	×	歳入総額	62,990,159	59,652,198	実質収支比率	4.1	3.2								
市町村名	野田市		地方交付税種地	I-5		財源超過	×	歳出総額	60,851,014	58,022,354	経常収支比率	95.3	93.5								
						首都	○	歳入歳出差引	2,139,145	1,629,844	(※1)	(95.8)	(94.5)								
人口	令和2年国調(人)	152,638	産業構造(※5)		中部	×	翌年度に繰越すべき財源	767,613	576,961	標準財政規模	33,397,135	32,611,549									
	平成27年国調(人)	153,583			近畿	×	実質収支	1,371,532	1,052,883	財政力指数	0.79	0.80									
	増減率(%)	-0.6			単年度収支	×	単年度収支	318,649	-569,678	公債費負担比率	11.0	12.2									
住民基本台帳人口(※7)	令和07.01.01(人)	153,538	第1次	低開発	×	積立金	916,187	1,046,019	健全化判断比率												
	うち日本人(人)	147,947		1.274	1,410	指数表選定	○	積立金取崩し額	2,180,000	1,050,000	実質赤字比率	-	-								
	令和06.01.01(人)	153,815	第2次			実質単年度収支	-945,164	-573,659	連結実質赤字比率	4.0	4.3										
	うち日本人(人)	148,861		1.9	2.1	基準財政収入額	21,459,067	21,198,255	資金不足比率(※4)												
	増減率(%)	-0.2	25.7	27.3	基準財政需要額	27,436,480	26,586,669														
	うち日本人(%)	-0.6	49,457	48,572	標準税収入額等	27,257,467	26,905,746														
	面積(km ²)	103.55	72.5	70.6	経常経費充当一般財源等	33,030,869	31,064,253														
人口密度(人/km ²)	1,474			歳入一般財源等	42,588,345	40,294,120															
世帯数(世帯)	63,581																				
職員の状況(※8)																					
特別職等	区分	定数	1人あたり平均給料月額(百円)	一般職員等(※6)	区分	職員数(人)	給料月額(百円)	1人あたり平均給料月額(百円)	地方債現在高	38,671,066	40,313,404										
	市区町村長	1	9,720		一般職員	946	2,928,816	3,096	うち公的資金	28,398,563	29,548,292										
	副市区町村長	1	8,310		うち消防職員	196	557,032	2,842	地方債現在高(臨時財政対策債除き)	20,508,813	20,377,799										
	教育長	1	7,500		うち技能労務職員	37	113,886	3,078	債務負担行為額(支出予定額)	13,540,913	12,148,676										
	議会議長	1	5,470		教育公務員	26	92,364	3,552	収益事業収入	-	-										
	議会副議長	1	4,920		臨時職員	-	-	-	土地開発基金現在高	-	-										
	議会議員	26	4,500		合計	972	3,021,180	3,108	財政調整基金	5,170,221	6,434,034										
						ラスバイレス指数			99.4	積立金現在高	397,664	273,476									
								減債基金	2,948,080	2,941,626											
								その他特定目的基金													
一般会計等の一覧	会計名	事業会計の一覧	会計名	公営企業(法適)の一覧	会計名	公営企業(法非適)の一覧	会計名	関係する一部事務組合等一覧	組合等名	地方公社・第三セクター等一覧	団体名	(※3)									
(1) 一般会計		(2) 国民健康保険特別会計		(5) 水道事業会計				(7) 北千葉広域水道企業団(水道用水供給事業会計)		(14) 野田市開発協会		○									
		(3) 介護保険特別会計		(6) 下水道事業会計				(8) 千葉県市町村総合事務組合(一般会計)		(15) 野田業務サービス株式会社											
		(4) 後期高齢者医療特別会計						(9) 千葉県市町村総合事務組合(千葉県自治会館管理運営特別会計)		(16) 野田市土地開発公社		○									
								(10) 千葉県市町村総合事務組合(千葉県自治研修センター特別会計)		(17) 野田自然共生ファーム											
								(11) 千葉県市町村総合事務組合(千葉県市町村交通災害共済特別会計)													
								(12) 千葉県後期高齢者医療広域連合(一般会計)													
								(13) 千葉県後期高齢者医療広域連合(後期高齢者医療特別会計)													

(注釈) ※1: 経常収支比率の()内の数値は、「減収補償(特例分)」及び「臨時財政対策債」を除いて算出したものである。
 ※2: 各会計の一覧は主な会計(10会計まで)を記載している。
 ※3: 地方公共団体が損失補填等を行っている出資法人で、健全化法の算出対象となっている団体については、「地方公社・第三セクター等」の団体名に○印を付与している。
 ※4: 資金不足比率欄には、資金が不足している会計のみ記載している。
 ※5: 産業構造の比率は、分母を就業人口総数とし、分類不能の産業を除いて算出。
 ※6: 個人情報保護の観点から、対象となる職員数が1人又は2人の場合は、「給料月額(百円)」と「1人あたり給料月額(百円)」を「アスタリスク(*)」としている。(その他、数値のない欄については、すべてハイフン(-)としている)。
 ※7: 人口については、調査対象年度の1月1日現在の住民基本台帳に登録されている人口に基づいている。
 ※8: 職員の状況については、調査対象年度の地方公務員給与実態調査に基づいている。

(1) 普通会計の状況 (市町村)

歳入の状況 (単位 千円・%)				
区分	決算額	構成比	経常一般財源等	構成比
地方税	23,214,203	36.9	22,138,192	64.2
地方譲与税	412,187	0.7	412,187	1.2
利子割交付金	11,460	0.0	11,460	0.0
配当割交付金	193,045	0.3	193,045	0.6
株式等譲渡所得割交付金	289,302	0.5	289,302	0.8
分離課税所得割交付金	-	-	-	-
地方消費税交付金	3,830,481	6.1	3,830,481	11.1
ゴルフ場利用税交付金	164,965	0.3	164,965	0.5
自動車取得税交付金	-	-	-	-
軽油引取税交付金	-	-	-	-
自動車税環境性能割交付金	80,976	0.1	80,976	0.2
法人事業税交付金	340,370	0.5	340,370	1.0
地方特例交付金等	887,036	1.4	887,036	2.6
住宅借入金等特別税額控除減収補填特例交付金	176,902	0.3	176,902	0.5
定額減税減収補填特例交付金	682,508	1.1	682,508	2.0
新型コロナウイルス感染症対策地方税減収補填特例交付金	27,626	0.0	27,626	0.1
地方交付税	6,628,838	10.5	5,977,412	17.3
普通交付税	5,977,412	9.5	5,977,412	17.3
特別交付税	649,350	1.0	-	-
震災復興特別交付税	2,076	0.0	-	-
(一般財源計)	36,052,863	57.2	34,325,426	99.5
交通安全対策特別交付金	15,104	0.0	15,104	0.0
分担金・負担金	137,289	0.2	-	-
使用料	881,234	1.4	130,677	0.4
手数料	426,240	0.7	-	-
国庫支出金	12,247,275	19.4	-	-
国有提供交付金(特別区財源交付金)	-	-	-	-
都道府県支出金	4,186,270	6.6	-	-
財産収入	59,485	0.1	9,428	0.0
寄附金	266,724	0.4	-	-
繰入金	2,876,436	4.6	-	-
繰越金	1,629,844	2.6	-	-
諸収入	1,274,195	2.0	225	0.0
地方債	2,937,200	4.7	-	-
うち減収補填債(特例分)	-	-	-	-
うち臨時財政対策債	162,200	0.3	-	-
歳入合計	62,990,159	100.0	34,480,860	100.0

地方税の状況 (単位 千円・%)				
区分	収入済額	構成比	超過課税分	
普通税	22,138,192	95.4	438,317	
法定普通税	22,138,192	95.4	438,317	
市町村民税	9,667,807	41.6	438,317	
個人均等割	238,374	1.0	-	
所得割	7,664,799	33.0	-	
法人均等割	549,873	2.4	91,655	
法人税割	1,214,761	5.2	346,662	
固定資産税	10,802,340	46.5	-	
うち純固定資産税	10,788,982	46.5	-	
軽自動車税	465,071	2.0	-	
市町村たばこ税	1,202,974	5.2	-	
鉱産税	-	-	-	
特別土地保有税	-	-	-	
法定外普通税	-	-	-	
目的税	1,076,011	4.6	-	
入湯税	-	-	-	
事業所税	-	-	-	
都市計画税	1,076,011	4.6	-	
水利地益税等	-	-	-	
法定外目的税	-	-	-	
旧法による税	-	-	-	
合計	23,214,203	100.0	438,317	

区分	令和6年度	令和5年度
徴収率(%)	99.5	98.8
現計	99.2	99.2
市町村民税	99.2	98.3
純固定資産税	99.7	99.2

公営事業等への繰出		国民健康保険事業会計の状況	
合計	6,693,558	実質収支	55,093
下水道	899,852	再差引収支	-613,532
上水道	121,487	加入世帯数(世帯)	20,381
介護サービス	9,847	被保険者数(人)	30,111
工業用水道	-	被保険者	97
国民健康保険	1,552,969	保険料(料)収入額	-
その他	4,109,403	国庫支出金	-
		保険給付費	366

歳出の状況 (単位 千円・%)				
区分	決算額(A)	構成比	(A)のうち普通建設事業費	(A)のうち充当一般財源等
議会費	351,996	0.6	-	351,909
総務費	6,912,976	11.4	216,426	5,993,899
民生費	28,275,079	46.5	626,271	14,953,083
衛生費	4,979,942	8.2	476,237	3,949,270
労働費	73,331	0.1	-	73,186
農林水産業費	705,982	1.2	120,959	493,317
商工費	321,470	0.5	2,220	110,889
土木費	5,109,303	8.4	2,234,020	3,190,307
消防費	1,929,464	3.2	45,340	1,865,439
教育費	7,491,276	12.3	1,771,209	4,786,206
災害復旧費	-	-	-	-
公債費	4,700,195	7.7	-	4,681,695
諸支出金	-	-	-	-
前年度繰上充用金	-	-	-	-
歳出合計	60,851,014	100.0	5,492,682	40,449,200

性質別歳出の状況 (単位 千円・%)					
区分	決算額	構成比	充当一般財源等	経常経費充当一般財源等	経常収支比率
義務的経費計	33,452,502	55.0	21,587,533	19,469,929	56.2
人件費	10,175,961	16.7	9,302,202	9,116,908	26.3
うち職員給	6,474,214	10.6	5,871,717	-	-
扶助費	18,576,346	30.5	7,603,636	5,671,326	16.4
公債費	4,700,195	7.7	4,681,695	4,681,695	13.5
元利償還金	4,700,195	7.7	4,681,695	4,681,695	13.5
うち元金	4,579,538	7.5	4,562,231	4,562,231	13.2
うち利子	120,657	0.2	119,464	119,464	0.3
一時借入金利子	-	-	-	-	-
その他の経費	21,905,830	36.0	17,605,032	13,560,940	39.1
物件費	11,006,668	18.1	8,450,955	7,597,517	21.9
維持補修費	164,512	0.3	131,844	131,844	0.4
補助費等	3,126,328	5.1	2,759,773	1,875,313	5.4
うち一部事務組合負担金	32,957	0.1	32,957	27,593	0.1
繰入金	5,672,219	9.3	4,719,708	3,956,206	11.4
積立金	1,699,188	2.8	1,516,017	-	-
投資・出資金・貸付金	236,915	0.4	26,735	60	0.0
前年度繰上充用金	-	-	-	-	-
投資的経費計	5,492,682	9.0	1,256,635	-	-
うち人件費	222,904	0.4	222,904	-	-
普通建設事業費	5,492,682	9.0	1,256,635	-	-
うち補助	1,589,899	2.6	86,188	-	-
うち単独	3,483,434	5.7	1,131,422	-	-
災害復旧事業費	-	-	-	-	-
失業対策事業費	-	-	-	-	-
歳出合計	60,851,014	100.0	40,449,200	-	-

(注釈)
普通建設事業費の補助事業費には受託事業費のうちの補助事業費を含み、単独事業費には同級他団体施行事業負担金及び受託事業費のうちの単独事業費を含む。

(2)各会計、関係団体の財政状況及び健全化判断比率（市町村）

令和6年度 千葉県野田市

一般会計等の財政状況(単位:百万円)

会計名	歳入	歳出	形式収支	実質収支	他会計等からの繰入金	地方債現在高	備考
1 一般会計	63,086	60,947	2,139	1,388	2,876	38,672	
2							
3							
4							
5							
6							
7							
8							
9							
10							
11							
12							
13							
14							
15							
16							
17							
18							
19							
20							
21							
22							
23							
24							
25							
26							
27							
28							
29							
30							
31							
32							
33							
34							
35							
36							
37							
38							
39							
40							
41							
42							
43							
44							
45							
46							
47							
48							
49							
50							
51							
52							
53							
54							
55							
56							
57							
58							
59							
60							
61							
62							
63							
64							
65							
66							
67							
68							
69							
70							
71							
72							
73							
74							
75							
76							
77							
78							
79							
80							
81							
82							
83							
84							
85							
86							
87							
88							
89							
90							
91							
92							
93							
94							
95							
96							
97							
98							
99							
100							
101							
102							
103							
104							
105							
106							
107							
108							
109							
110							
111							
112							
113							
114							
115							
116							
117							
118							
119							
120							
121							
122							
123							
124							
125							
126							
127							
128							
129							
130							
131							
132							
133							
134							
135							
136							
137							
138							
139							
140							
141							
142							
143							
144							
145							
146							
147							
148							
149							
150							
151							
152							
153							
154							
155							
156							
157							
158							
159							
160							
161							
162							
163							
164							
165							
166							
167							
168							
169							
170							
171							
172							
173							
174							
175							
176							
177							
178							
179							
180							
181							
182							
183							
184							
185							
186							
187							
188							
189							
190							
191							
192							
193							
194							
195							
196							
197							
198							
199							
200							
201							
202							
203							
204							
205							
206							
207							
208							
209							
210							
211							
212							
213							
214							
215							
216							
217							
218							
219							
220							
221							
222							
223							
224							
225							
226							
227							
228							
229							
230							
231							
232							
233							
234							
235							
236							
237							
238							
239							
240							
241							
242							
243							
244							
245							
246							
247							
248							
249							
250							
251							
252							
253							
254							
255							
256							
257							
258							
259							
260							
261							
262							
263							
264							
265							
266							
267							
268							
269							
270							
271							
272							
273							
274							
275							
276							
277							
278							
279							
280							
281							
282							
283							
284							
285							
286							
287							
288							
289							
290							
291							
292							
293							
294							
295							
296							
297							
298</							

(3) 市町村財政比較分析表(普通会計決算)

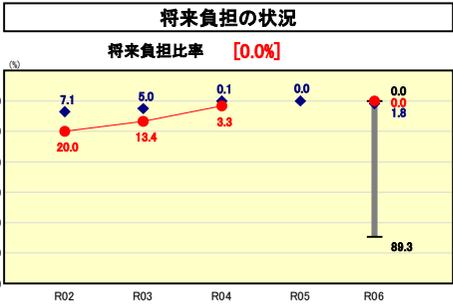
令和6年度

千葉県野田市

人口	153,538人	(R7.1.1現在)	実質赤字比率	-%
うち日本人	147,947人	(R7.1.1現在)	連結実質赤字比率	-%
面積	103.55km ²		実質公債費比率	4.0%
歳入総額	62,990,159千円		将来負担比率	0.0%
歳出総額	60,851,014千円		市町村類型	R02 IV-3 R03 IV-3 R04 IV-3
実質収支	1,371,532千円		(年度毎)	R05 IV-3 R06 IV-3
標準財政規模	33,397,135千円			
地方債現在高	38,671,066千円			



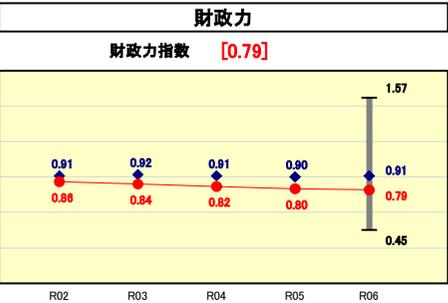
※市町村類型とは、人口および産業構造等により全国の市町村を35のグループに分類したものである。当該団体と同じグループに属する団体を類似団体と言う。
 ※充当可能財源等が将来負担額を上回っている団体については、将来負担比率のグラフを表記しない。
 ※「人件費・物件費等の状況」の決算額は、人件費、物件費及び維持補修費の合計である。ただし、人件費には事業費支弁人件費を含み、退職金は含まない。
 ※人口については、各調査対象年度の1月1日現在の住民基本台帳に記載されている人口に基づいている。
 ※類似団体内順位、全国平均、各都道府県平均は、令和6年度決算の状況である。また類似団体が存在しない場合、類似団体内順位を表示しない。
 ※「定員管理の状況」の「人口1,000人当たり職員数」の算出に用いる職員数及び「給与水準(国との比較)」の「ラスパイレズ指数」については、各調査対象年度の地方公務員給与実態調査に基づいている。



類似団体内順位 17/36 全国平均 6.2 千葉県平均 25.2

将来負担比率の分析欄

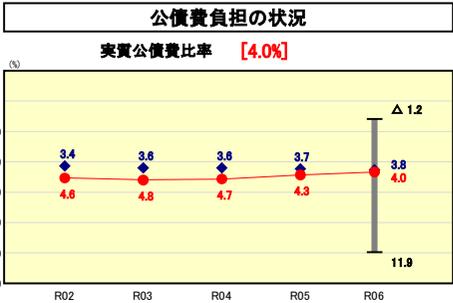
分子となる地方債残高などの将来負担額が減少したものの、将来負担額から控除される充当可能財源がそれ以上に減少したことから、将来負担額が充当可能財源等を若干上回った結果、比率が算定されて0.0%となった。
 今後も、多くの施設が大規模改修等の時期を迎えることから、地方債の発行額を公債費の元金償還額以内に収め、将来負担を減少させるとともに、将来負担の抑制に資する財政調整基金残高の維持に努める。



類似団体内順位 24/36 全国平均 0.49 千葉県平均 0.69

財政力指数の分析欄

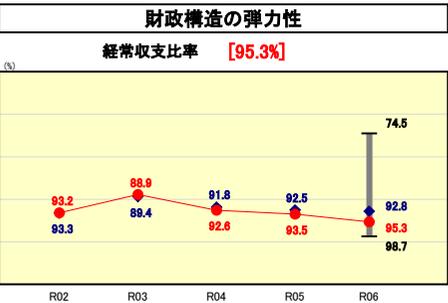
地方特例交付金や市民税の法人税割等の増加により、分子となる基準財政収入額が増加したものの、こども子育て費や給与改定費の創設などにより分母となる基準財政需要額が分子の伸びを上回る増加となったことから、単年度の財政力指数は0.02ポイント減となり、3か年平均では0.01ポイント減となっている。
 今後は、市税等の市税等の経常一般財源が大きく伸びない中で、社会保障関係経費等が大きく伸びる見込みであることから、引き続き市税等の徴収率向上に取り組み、財政基盤の強化を図る。



類似団体内順位 19/36 全国平均 5.6 千葉県平均 5.9

実質公債費比率の分析欄

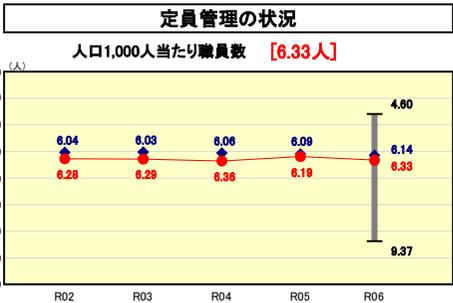
分子となる元利償還金が減少し、分母となる標準財政規模が増加したことから、実質公債費比率は単年度、3か年平均ともに0.3ポイント改善したが、依然として類似団体より高い水準にある。
 今後は、合併特例債の償還の減少が見込まれるものの、平成28年度から29年度にかけて実施した小中学校及び幼稚園空調設備設置事業に係る地方債の償還が本格化していることや、多くの施設が大規模改修等の時期を迎えることから、各種事業の必要性や緊急性を見極めるとともに、地方債の発行額を公債費の元金償還額以内に収め、公債費残高を減少させる。



類似団体内順位 21/36 全国平均 93.8 千葉県平均 94.1

経常収支比率の分析欄

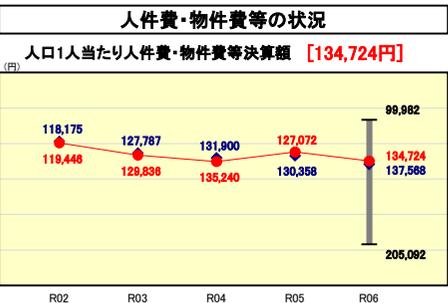
地方特例交付金や普通交付税等の増により分母となる経常一般財源等が4.3%の増となったものの、人件費、物件費、扶助費等の増により、分子となる一般財源充当経常経費が6.3%の増となったことから、経常収支比率は前年度から1.8ポイント悪化した。
 今後は、市税等の経常一般財源が大きく伸びない中で、社会保障関係経費が引き続き増加する見込みであることに加え、物価の高騰や賃上げ、処遇改善の実施などにより、経常経費の増加が見込まれることから、更なる悪化が危惧される。更なる行政改革の推進に加え、ゼロベースでの全事業見直しにより経常経費の削減に努めるとともに、引き続き市税等の徴収率向上や新たな財源確保に取り組み、経常一般財源の確保に努める。



類似団体内順位 24/36 全国平均 8.41 千葉県平均 7.56

人口1,000人当たり職員数の分析欄

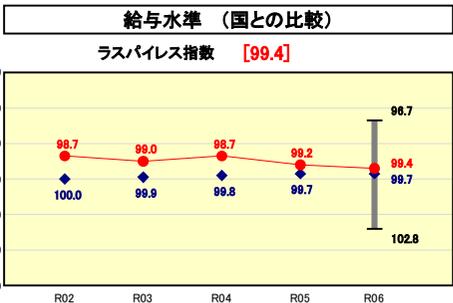
土木部門、衛生部門等が減少したものの、総務・企画部門、民生部門等が増加したことから、0.14人増加し、依然として類似団体を上回っている。
 引き続き、行政改革大綱に基づき適正な定員管理及び職員配置に努める。



類似団体内順位 21/36 全国平均 169,281 千葉県平均 147,933

人口1人当たり人件費・物件費等決算額の分析欄

会計年度任用職員に対する勤勉手当の支給開始等による人件費の増加に加え、公共施設包括管理業務委託料の導入等により物件費が増加したことから、人件費・物件費等の決算額が大幅に増加した。
 今後は行政改革大綱に基づき、民間活力の有効活用、定員の適正化、給与の適正化等の実施に加え、ゼロベースでの全事業見直しにより更なる経常経費の削減に努める。



類似団体内順位 16/36 全国市平均 98.6 全国町村平均 96.4

ラスパイレズ指数の分析欄

ラスパイレズ指数は、類似団体平均値より0.3ポイント低くなっている。平成27年度からは、国家公務員俸給表を基本とした給料表へ切り替え、令和2年度からは国家公務員俸給表に継ぎ足していた部分を廃止するなど給与の適正化に取り組んでいる。

(4)-1 市町村経常経費分析表(普通会計決算)

令和6年度

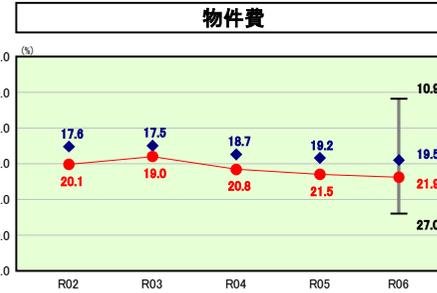
千葉県野田市

経常収支比率の分析

人口	153,538人	(R7.1.1現在)	実質赤字比率	-%
うち日本人	147,947人	(R7.1.1現在)	連結実質赤字比率	-%
面積	103.55km ²		実質公債費比率	4.0%
歳入総額	62,990,159千円		将来負担比率	0.0%
歳出総額	60,851,014千円		市町村類型	R02 IV-3 R03 IV-3 R04 IV-3
実質収支	1,371,532千円		(年度毎)	R05 IV-3 R06 IV-3
標準財政規模	33,397,135千円			
地方債現在高	38,671,066千円			



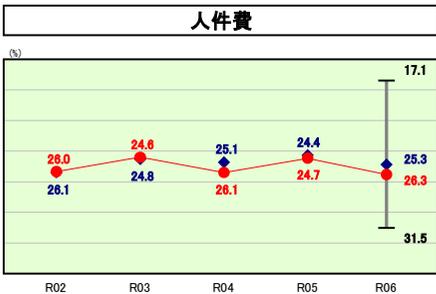
※ 市町村類型とは、人口および産業構造等により全国の市町村を35のグループに分類したものである。当該団体と同じグループに属する団体を類似団体と言う。
 ※ 人口については、各調査対象年度の1月1日現在の住民基本台帳に記載されている人口に基づいている。
 ※ 類似団体内順位、全国平均、各都道府県平均は、令和6年度決算の状況である。また類似団体が存在しない場合、類似団体内順位を表示しない。



類似団体内順位 26/36 全国平均 15.6 千葉県平均 18.8

物件費の分析欄

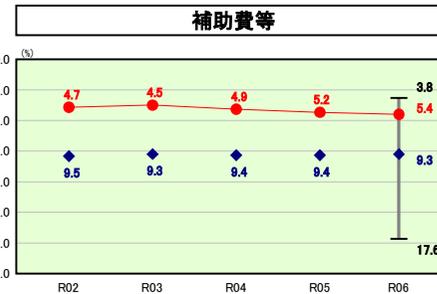
物件費に係る経常収支比率は、公共施設包括管理業務委託の導入に加え、老朽化している清掃工場の機器保守点検委託料の増加等により、前年度から0.4ポイント増加しており、依然として類似団体と比べて高い水準にある。これは行政改革大綱実施計画に基づき民間活力の有効活用を推進していること、備品の更新の際に予算の標準化を図るためリースとしているケースが多いことなどが要因となっている。
 民間活力の有効活用は、人件費の抑制につながることも、効率化が図れることから今後も推進し、併せてゼロベースでの全事業見直しにより需用費等の経常経費の削減に努める。



類似団体内順位 21/36 全国平均 26.6 千葉県平均 28.1

人件費の分析欄

人件費に係る経常収支比率は、段階的な定年引上げに伴う退職手当の増、会計年度任用職員に対する勤労手当の支給開始等により前年度から1.6ポイント増加し、類似団体内平均値より1.0ポイント高い水準にある。
 今後も、定年引上げにより隔年で退職手当が増加し、比率も増加することになるが、引き続き正規職員、再任用職員及び会計年度任用職員をバランスよく配置し、総人件費の抑制に努める。



類似団体内順位 6/36 全国平均 10.7 千葉県平均 8.7

補助費等の分析欄

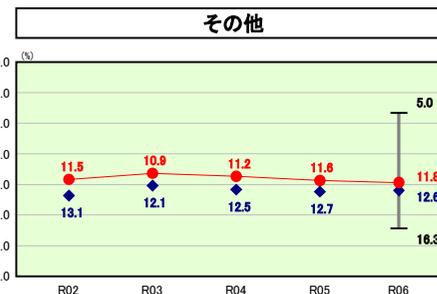
補助費等に係る経常収支比率は、類似団体と比べてかなり低い水準にあるが、これは各種団体への補助金支出が要因の一つとなっている。
 これまでも交付に一定の基準を設け、公平・公正な審査、執行等に努めてきたが、平成28年度からは補助金等交付規則を全部改正し、精算・返納の規定を盛り込むなど、更なる適正性の確保を図っている。



類似団体内順位 27/36 全国平均 13.4 千葉県平均 13.7

扶助費の分析欄

扶助費に係る経常収支比率は、児童扶養手当などの減があったものの、障がい者給付費、障がい児通所給付費、私立保育所等施設型給付費などの増があったことから、前年度から0.7ポイント増加し、類似団体内平均値より1.4ポイント高い水準にある。
 今後も高齢化の進展、少子化対策、障がい者の増加等により社会保障関係費の増加が見込まれることから、引き続き給付の適正化、ゼロベースでの事業見直し等を実施し、真に必要な給付に努める。



類似団体内順位 11/36 全国平均 12.5 千葉県平均 11.9

その他の分析欄

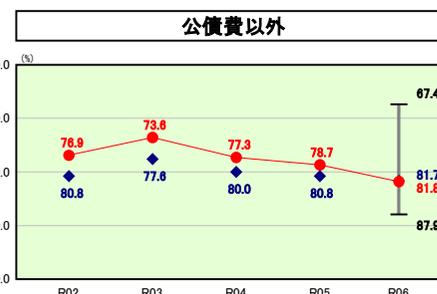
その他に係る経常収支比率は、主に維持補修費と特別会計への繰出金であるが、維持補修費は減少したものの、繰出金が増加したことから、前年度から0.2ポイント増加している。
 今後も、高齢化により医療関連特別会計への繰出金は年々増加が見込まれることから、引き続き繰出基準に基づく適正な繰出しを行う。



類似団体内順位 23/36 全国平均 15.0 千葉県平均 12.9

公債費の分析欄

公債費に係る経常収支比率は、類似団体と比べて高い水準にあるが、これは合併時に決定した新市建設計画に基づき、合併特例債を有効活用してきたことが要因となっている。
 今後は、合併特例債の償還の減少が見込まれるものの、平成28年度から29年度にかけて実施した小中学校及び幼稚園空調設備設置事業に係る地方債の償還が本格化していることから、各種事業の必要性や緊急性を見極めるとともに、地方債の発行額を公債費の元金償還額以内に収め、将来負担を減少させる。



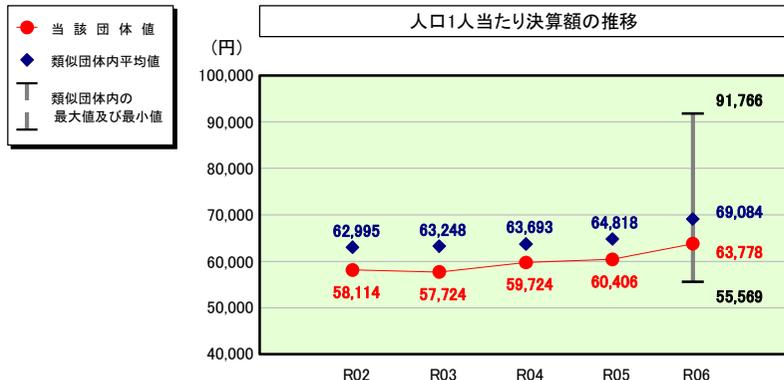
類似団体内順位 15/36 全国平均 78.8 千葉県平均 81.2

公債費以外の分析欄

公債費以外に係る経常収支比率は、分母となる経常一般財源が増加したものの、分子となる一般財源充当経常経費が人件費や扶助費、物件費等の増により増加したことから、前年度から3.1ポイント増加している。
 今後も扶助費を始めとした義務的経費の増加が見込まれることから、更なる行政改革の推進やゼロベースでの全事業見直しによる経常経費の削減に努めるとともに、市税等の徴収率向上や新たな財源確保に取り組み、経常一般財源の確保を図る。

(4)-2 市町村経常経費分析表(普通会計決算)

人件費及び人件費に準ずる費用の分析



人件費及び人件費に準ずる費用

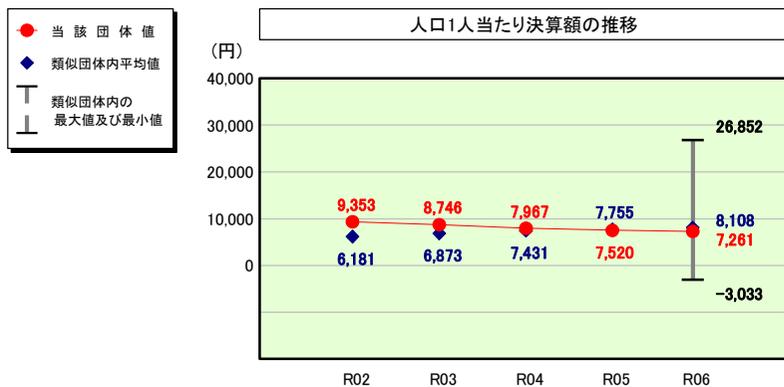
項目	当該団体決算額 (千円)	人口1人当たり決算額		
		当該団体(円)	類似団体平均(円)	対比(%)
人件費	10,175,961	66,276	66,742	▲ 0.7
一部事務組合負担金(補助費等)	2,555	17	1,287	▲ 98.7
公営企業(法適)等に対する繰出し(補助費等)	17,323	113	1,074	▲ 89.5
公営企業(法適)等に対する繰出し(投資及び出資金・貸付金)	-	-	41	-
公営企業(法非適)等に対する繰出し(繰出金)	258,473	1,683	2,303	▲ 26.9
事業費支弁に係る職員の人件費(投資的経費)	222,904	1,452	1,496	▲ 2.9
▲退職金	▲ 884,865	▲ 5,763	▲ 3,858	▲ 49.4
合計	9,792,351	63,778	69,084	▲ 7.7

参考

項目	当該団体	類似団体平均	対比(差引)
人口1,000人当たり職員数(人)	6.33	6.14	0.19
ラスパイレス指数	99.4	99.7	▲ 0.3

(注) 人口については、各調査対象年度の1月1日現在の住民基本台帳に登録されている人口に基づいている。

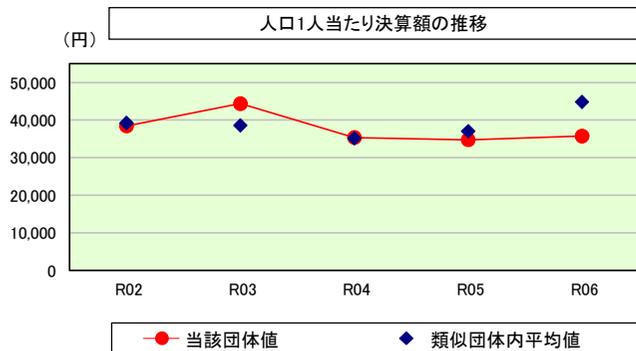
公債費及び公債費に準ずる費用の分析



公債費及び公債費に準ずる費用(実質公債費比率の構成要素)

項目	当該団体決算額 (千円)	人口1人当たり決算額		
		当該団体(円)	類似団体平均(円)	対比(%)
元利償還金の額 (繰上償還額等を除く)	4,700,522	30,615	26,372	16.1
積立不足額を考慮して算定した額	-	-	3	-
満期一括償還地方債の一年当たりの元金償還金に相当するもの (年度割相当額)	-	-	27	-
公営企業に要する経費の財源とする地方債の償還の財源に 充てたと認められる繰入金	666,563	4,341	5,235	▲ 17.1
一部事務組合等の起こした地方債に充てたと認められる 補助金又は負担金	-	-	476	-
公債費に準ずる債務負担行為に係るもの	1,075	7	969	▲ 99.3
一時借入金利息 (同一団体における会計間の現金運用に係る利子は除く)	-	-	-	-
▲特定財源の額	▲ 835,609	▲ 5,442	▲ 7,307	▲ 25.5
▲地方債に係る元利償還金及び準元利償還金に要する経費として 普通交付税の額の算定に用いる基準財政需要額に算入された額	▲ 3,417,753	▲ 22,260	▲ 17,667	26.0
合計	1,114,798	7,261	8,108	▲ 10.4

(参考) 普通建設事業費の分析



普通建設事業費

年度	当該団体決算額 (千円)	人口1人当たり決算額				
		当該団体(円)	増減率(%) (A)	類似団体平均(円)	増減率(%) (B)	(A)-(B)
R02	5,927,388	38,455	31.2	39,221	4.2	27.0
	うち単独分	2,984,881	19,365	24,821	▲ 0.5	31.3
R03	6,825,612	44,378	15.4	38,566	▲ 1.7	17.1
	うち単独分	3,677,038	23,907	24,059	▲ 3.1	26.6
R04	5,431,217	35,345	▲ 20.4	35,156	▲ 8.8	▲ 11.6
	うち単独分	2,834,950	18,449	22,430	▲ 6.8	▲ 16.0
R05	5,345,127	34,750	▲ 1.7	37,029	5.3	▲ 7.0
	うち単独分	2,931,145	19,056	23,232	3.6	▲ 0.3
R06	5,492,682	35,774	2.9	44,805	21.0	▲ 18.1
	うち単独分	3,483,434	22,688	29,857	28.5	▲ 9.4
過去5年間平均	5,804,405	37,740	5.5	38,955	4.0	1.5
	うち単独分	3,182,290	20,693	24,880	4.3	6.5

(5) 市町村性質別歳出決算分析表(住民一人当たりのコスト)

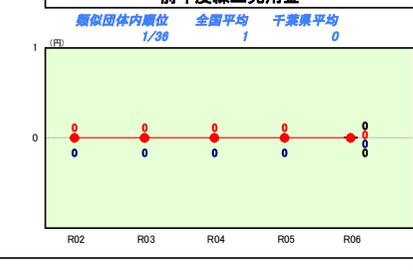
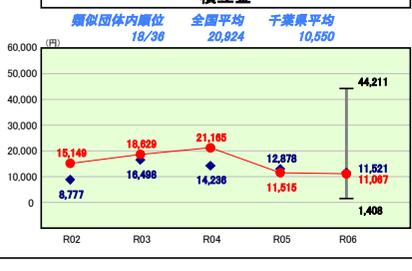
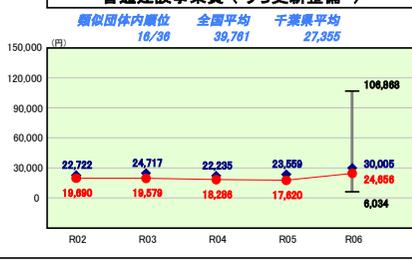
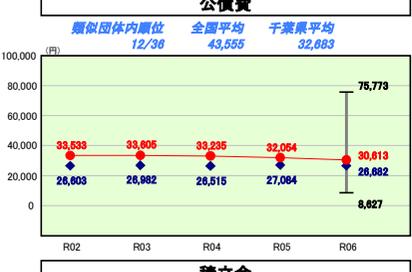
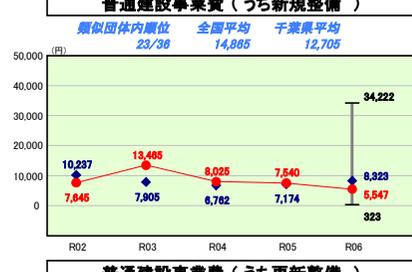
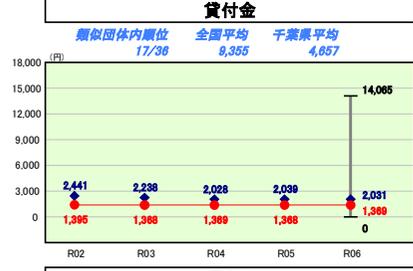
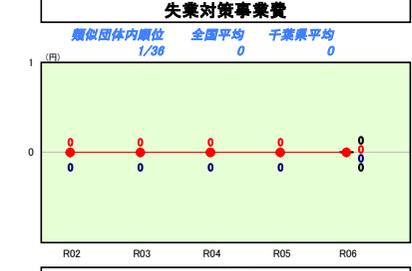
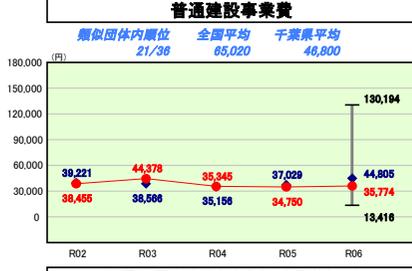
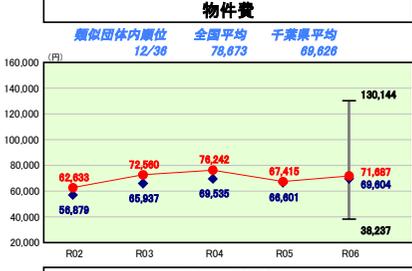
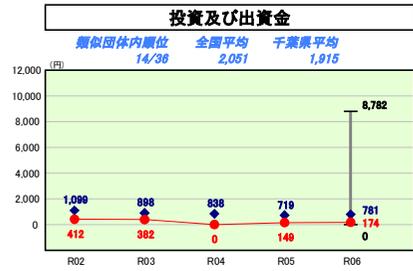
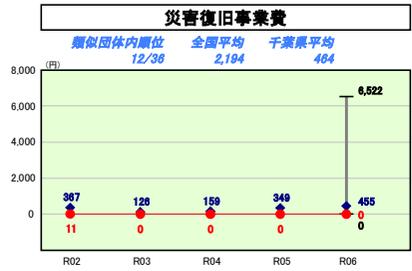
令和6年度

千葉県野田市

人口	153,538人(R7.1.1現在)	実質赤字比率	-%
うち日本人	147,947人(R7.1.1現在)	連結実質赤字比率	-%
面積	103.55km ²	実質公債費比率	4.0%
農産物産出額	62,900,159千円	特長負担比率	0.0%
農産物販売額	60,851,014千円	市町村類型	R02 IV-3 R03 IV-3 R04 IV-3
実質収支	1,371,532千円	(年度毎)	R05 IV-3 R06 IV-3
標準財政規模	33,307,135千円		
地方債現在高	38,671,066千円		

- 当該団体値
- ◆ 類似団体内平均値
- ┌ 類似団体内の最大値及び最小値

※ 市町村類型とは、人口および産業構造等により全国の市町村を35のグループに分類したものである。当該団体と同じグループに属する団体を類似団体と言う。
 ※ 人口については、各調査対象年度の1月1日現在の住民基本台帳に登録されている人口に基づいている。
 ※ 類似団体内順位、全国平均、各都道府県平均は、令和6年度決算の状況である。また類似団体が存在しない場合、類似団体内順位を表示しない。



性質別歳出の分析概
 歳出決算総額は、住民一人当たり396,325円となっており、対前年度比で19,103円の増となっている。
 人件費は、住民一人当たり966,276円となっている。令和2年度以降は会計年度任用職員制度の導入に伴い増加傾向にあったが、令和5年度は段階的な定年引上げに伴い退職手当が減少したことから減少したが、令和6年度は退職手当の増加に加え、会計年度任用職員に対する勤勉手当の支給開始等により増加している。
 物件費は、住民一人当たり711,687円となっており、類似団体より高い水準にあるのは、民間活力の有効活用の推進が主な要因となるが、民間活力の有効活用は、人件費の抑制につながるがともにも効率化が図れることから、今後も引き続き推進する。
 扶助費は、住民一人当たり120,989円となっており、類似団体より低い水準にあるが、令和6年度は、物価高騰対策に係る各種給付金の支給や児童手当の支給拡大に加え、障がい者扶助費等が増加したことから増加している。
 公債費は、住民一人当たり300,613円となっており、類似団体より高い水準にあるのは、合併関連事業を合併特例債を有効活用して推進してきたことが要因となるが、今後は地方債の発行額を公債費の元金償還額以内に収め、公債費を減少させる。
 普通建設事業費は、住民一人当たり335,774円となっており、令和6年度は、野田市駅前広場築造工事が完了したことなどから新規整備は減少したものの、福祉体育館耐震補強及び大規模改修工事や学校給食センターの建替工事を実施したこと更新整備が増加したことから増加している。

(6) 市町村目的別歳出決算分析表(住民一人当たりのコスト)

令和6年度

千葉県野田市

人口	153,538人(R7.1.1現在)	実質赤字比率	-%
うち日本人	147,947人(R7.1.1現在)	連結実質赤字比率	-%
面積	103.55km ²	実質公債費比率	4.0%
農入総額	62,900,159千円	将来負担比率	0.0%
農出総額	60,851,014千円		
農実収支	1,371,532千円	市町村類型	R02 IV-3 R03 IV-3 R04 IV-3
標準財政規模	33,307,135千円	(年度毎)	R06 IV-3 R06 IV-3
地方債現在高	38,671,066千円		

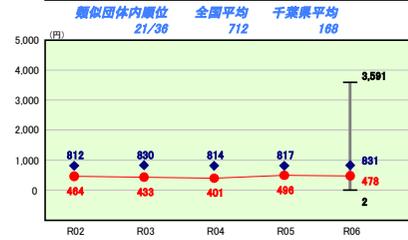


※ 市町村類型とは、人口および産業構造等により全国の市町村を35のグループに分類したものである。当該団体と同じグループに属する団体を類似団体と言う。
 ※ 人口については、各調査対象年度の1月1日現在の住民基本台帳に登録されている人口に基づいている。
 ※ 類似団体内順位、全国平均、各都道府県平均は、令和6年度決算の状況である。また類似団体が存在しない場合、類似団体内順位を表示しない。

議会費



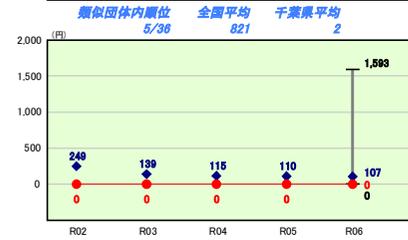
労働費



消防費



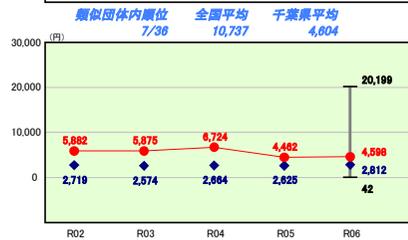
諸支出金



総務費



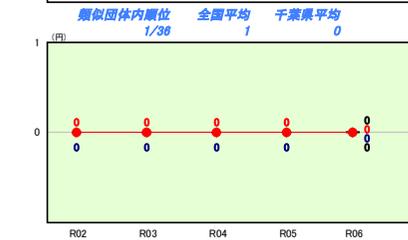
農林水産業費



教育費



前年度繰上充用金



民生費



商工費



災害復旧費



衛生費



土木費



公債費



目的別歳出の分析概

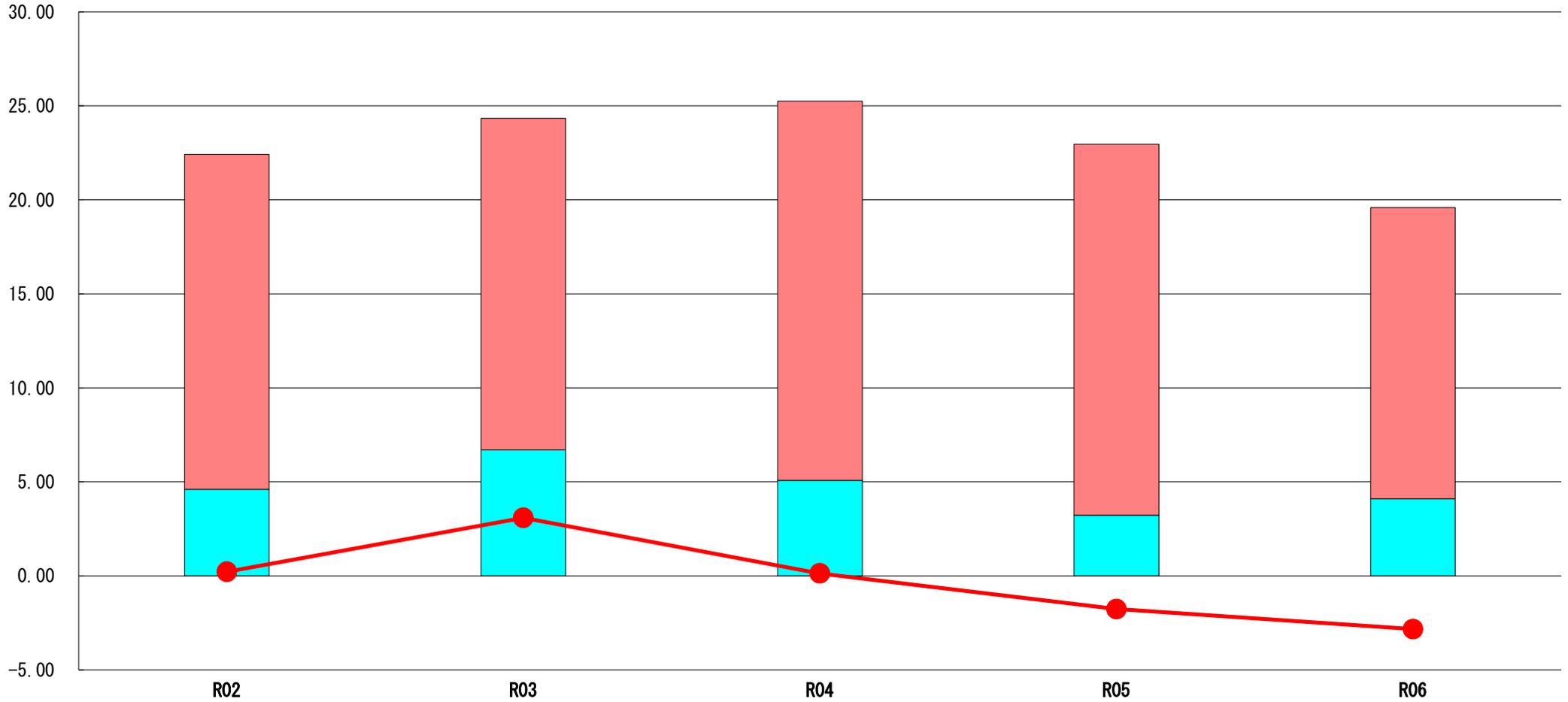
総務費は、住民一人当たり45,025円となっており、類似団体より低い水準にあるのは、増強を図ってきた財政調整基金の積立額が前年度決算剰余金の減等により減少したことが主な要因である。
 民生費は、住民一人当たり184,157円となっており、類似団体より低い水準にあるが、年々上昇傾向にあり、今後も高齢化の進展、少子化対策、障がい者の増加等により社会保障関係経費の増加が見込まれることから、給付の適正化を図り、真に必要な給付に努める。
 農林水産業費は、住民一人当たり4,598円となっており、類似団体より高い水準にあるのは、黒野米等の農産物ブランド化事業や堆肥センターの運営など、市独自の施策を行っていることが主な要因である。
 土木費は、住民一人当たり33,277円となっており、類似団体より低い水準にあるのは、連続立体交差事業及びその関連事業の進捗に伴い、事業量が減少したことが主な要因である。
 教育費は、住民一人当たり48,791円となっており、類似団体より低い水準にあるが、年々増加傾向にあり、今後も小中学校のトイレ改修工事や老朽化した学校施設等の改修工事等の実施により増加が見込まれる。
 公債費は、住民一人当たり30,613円となっており、類似団体より高い水準にあるのは、普通交付税の代替である臨時財政対策債の累積と、合併特例債を有効活用して合併関連事業を推進していたことが主な要因である。

(7) 実質収支比率等に係る経年分析（市町村）

令和6年度

千葉県野田市

標準財政規模比（%）



標準財政規模比（%）

区分	年度	R02	R03	R04	R05	R06
 財政調整基金残高		17.82	17.63	20.17	19.73	15.48
 実質収支額		4.60	6.71	5.08	3.23	4.11
 実質単年度収支		0.22	3.09	0.14	▲ 1.76	▲ 2.83

分析欄

財政調整基金残高は、社会保障関係費の増加及び物価高騰への対応に伴い、財源としての財政調整基金の取崩しが増加したことに加え、前年度決算剰余金の減少等により積立額が減少したことから、年度末残高が減少するとともに、標準財政規模比も減少している。

実質収支額は、市税等の一般財源の上振れ分が前年度を上回ったことに加え、歳出側の不用額が増加したことから増加したが、財政調整基金の積立てを大幅に上回る取崩しがあったため、その点を考慮した実質単年度収支は減少している。

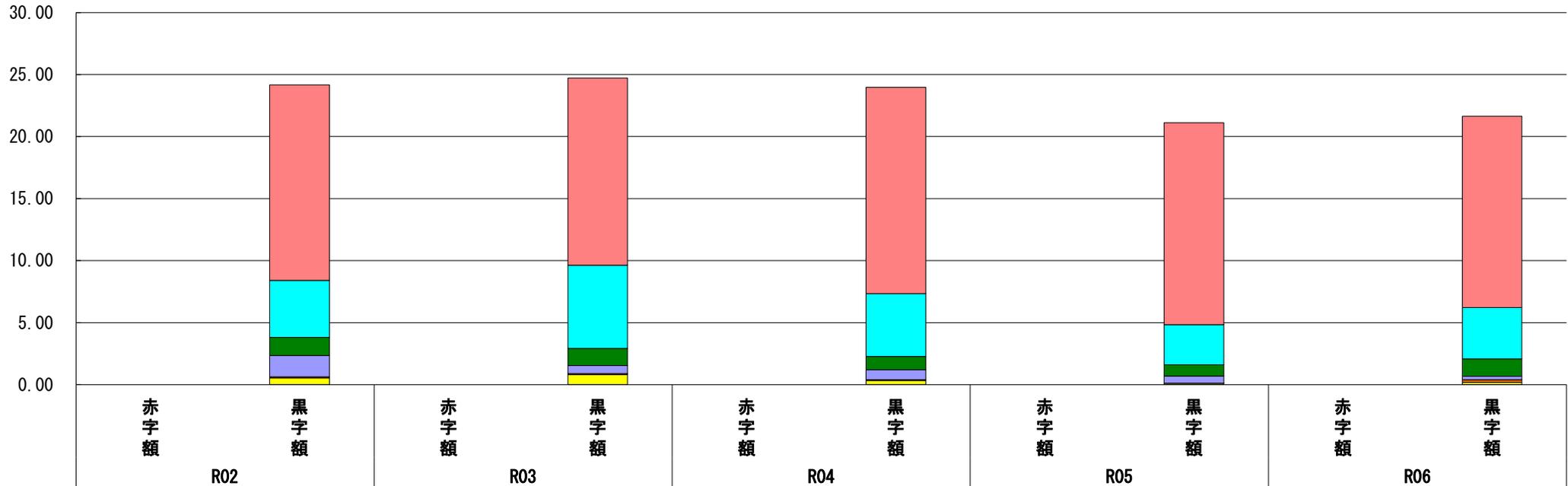
今後も引き続き、実質単年度収支の黒字化に努めるとともに、柔軟で安定した財政運営を可能とするため財政調整基金残高の維持に努める。

(8) 連結実質赤字比率に係る赤字・黒字の構成分析 (市町村)

令和6年度

千葉県野田市

標準財政規模比 (%)



標準財政規模比 (%)

年度		R02	R03	R04	R05	R06
水道事業会計	15.77	15.10	16.65	16.29	15.42	
一般会計	4.60	6.71	5.08	3.22	4.15	
下水道事業会計	1.47	1.39	1.06	0.92	1.41	
介護保険特別会計	1.71	0.66	0.81	0.57	0.26	
後期高齢者医療特別会計	0.11	0.06	0.05	0.01	0.24	
国民健康保険特別会計	0.52	0.81	0.33	0.10	0.16	
その他会計 (赤字)	-	-	-	-	-	
その他会計 (黒字)	0.00	0.00	0.00	0.00	-	

分析欄

水道事業会計は、生産緑地の指定解除に伴う開発事業が落ち着いたことによる給水申込納付金等の事業収益の減少に加え、クレジット決済業者変更に伴う上下水道料金システム改修や、6年ごとの中根配水場自家発電機設備細密点検業務の実施により、黒字額は減少した。今後は、人口減少に伴う給水収益の減少や自然災害リスク、増大する更新需要に対応するため、戦略的な経営に努めていく。

一般会計は、市税等の一般財源の上振れ分が前年度を上回ったことに加え、歳出側の不用額が増加したことから、黒字額が増加している。

下水道事業会計は、流域下水道維持管理費の増加等があったものの、一般会計からの他会計負担金及び他会計補助金が増加したことから、黒字額は増加している。

その他、介護保険特別会計は黒字額が減少したものの、国民健康保険特別会計及び後期高齢者医療特別会計は黒字額が増加している。

水道事業会計及び介護保険特別会計において黒字額が減少したものの、一般会計や下水道事業会計における黒字額の増加が大きかったことから、全体の連結実質黒字額は増加している。

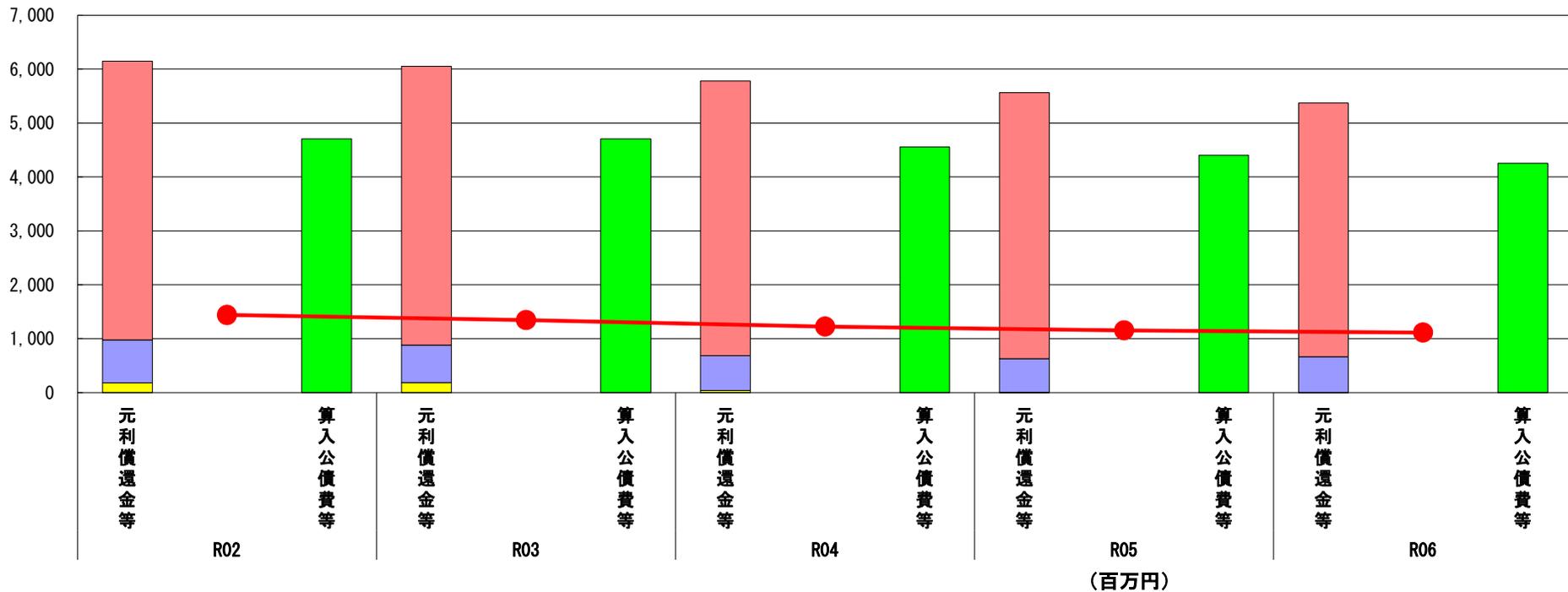
今後も全会計において黒字を維持し、財政の健全化に努める。

(9) 実質公債費比率（分子）の構造（市町村）

令和6年度

千葉県野田市

(百万円)



分子の構造		年度	R02	R03	R04	R05	R06
元利償還金等 (A)	元利償還金		5,171	5,171	5,094	4,931	4,701
	減債基金積立不足算定額※2		-	-	-	-	-
	満期一括償還地方債に係る年度割相当額		-	-	-	-	-
	公営企業債の元利償還金に対する繰入金		795	694	648	622	667
	組合等が起こした地方債の元利償還金に対する負担金等		-	-	-	-	-
	債務負担行為に基づく支出額		183	187	39	8	1
	一時借入金の利子		-	-	-	-	-
算入公債費等 (B)	算入公債費等		4,709	4,707	4,556	4,404	4,254
(A) - (B)	実質公債費比率の分子		1,440	1,345	1,225	1,157	1,115

分析欄

元利償還金については、臨時財政対策債償還費、合併特別償還費の占める割合が大きくなっているが、臨時財政対策債は100%、合併特別償還費は70%が普通交付税の基準財政需要額に算入されるため、元利償還金等から差し引かれる算入公債費等も大きくなっている。

令和6年度は、既発債の償還終了により元利償還金が減少しているが、その分算入公債費等も減少している。また、下水道事業会計に対する一般会計からの繰入金額が増加したことから、公営企業債の元利償還金に対する繰入金は増加したが、分子全体では減少している。

今後多くの施設が大規模改修等の時期を迎えることから、各種事業の必要性や緊急性を見極めるとともに、地方債の発行額を公債費の元金償還額以内に収め、公債費残高を減少させる。

※ 減債基金積立不足算定額=(C) × (1 - (D)/(E))

(参考)

分子の構造		年度	R02	R03	R04	R05	R06
減債基金積立状況等 (注)	満期一括償還地方債に係る実質償還額又は理論償還額のいずれか少ない額 (C)		-	-	-	-	-
	前年度末減債基金残高 (D)		-	-	-	-	-
	前年度末減債基金積立相当額 (E)		-	-	-	-	-

分析欄

満期一括償還地方債の借入れは行っていない。

(注) 減債基金のうち、実質公債費比率の算定に用いる満期一括償還地方債の償還の財源に係るもののみを記入。

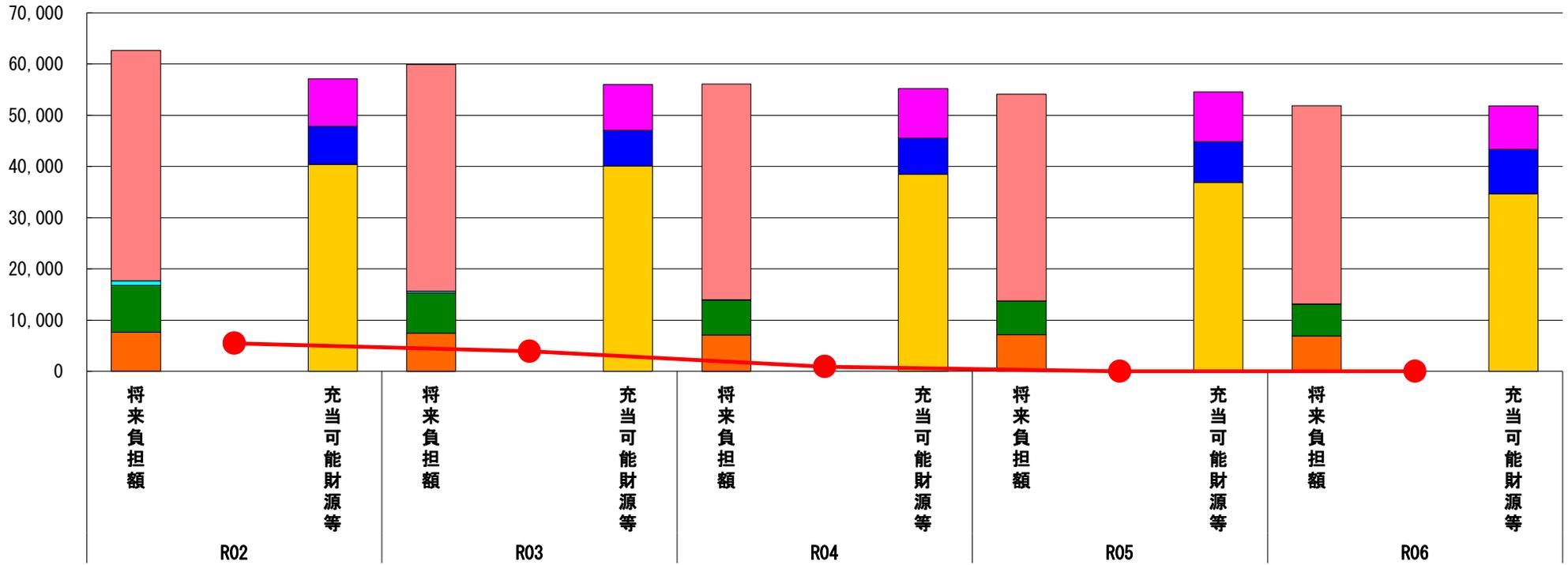
減債基金積立金の年度を超えた一般会計又は特別会計への貸付額は控除して記入

(10) 将来負担比率（分子）の構造（市町村）

令和6年度

千葉県野田市

(百万円)



(百万円)

分子の構造		年度	R02	R03	R04	R05	R06
将来負担額 (A)	一般会計等に係る地方債の現在高		44,906	44,295	42,087	40,315	38,672
	債務負担行為に基づく支出予定額		918	343	98	21	131
	公営企業債等繰入見込額		9,100	7,836	6,796	6,578	6,116
	組合等負担等見込額		-	-	-	-	-
	退職手当負担見込額		7,625	7,424	7,106	7,167	6,918
	設立法人等の負債額等負担見込額		47	18	9	-	-
	うち、健全化法施行規則附則第三条に係る負担見込額		-	-	-	-	-
	連結実質赤字額		-	-	-	-	-
充当可能財源等 (B)	組合等連結実質赤字額負担見込額		-	-	-	-	-
	充当可能基金		9,282	8,915	9,631	9,698	8,498
	充当可能特定歳入		7,423	6,955	7,070	7,964	8,664
	基準財政需要額算入見込額		40,407	40,128	38,460	36,873	34,654
(A) - (B)	将来負担比率の分子		5,485	3,919	936	▲ 455	23

分析欄

将来負担額の大半を占める一般会計等に係る地方債の現在高は、臨時財政対策債、合併特例債の現在高が占める割合が大きくなっているが、臨時財政対策債は100%、合併特例債は70%が普通交付税の基準財政需要額に算入されるため、将来負担比率に大きな影響を与えていない。

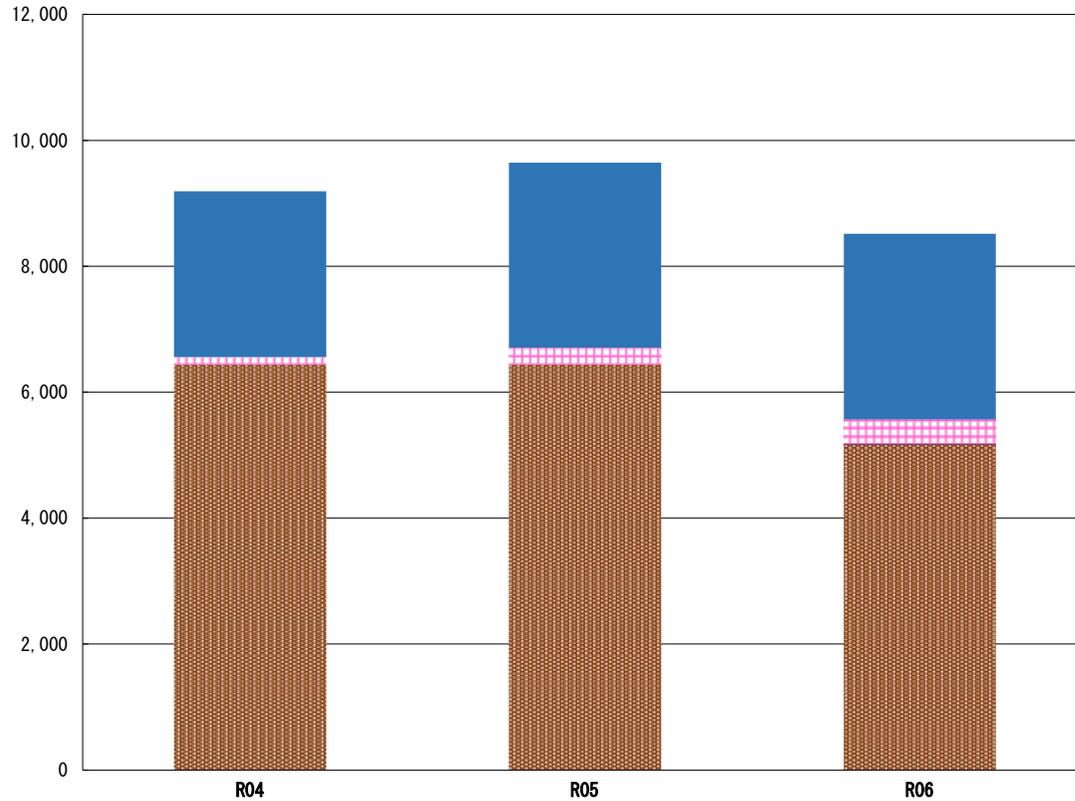
債務負担行為に基づく支出予定額は、中野台中根線用地取得事業において、新たな用地取得があったことから増加している。公営企業債等繰入見込額は、下水道事業会計における地方債残高の減などにより減少している。

また、充当可能財源等は、基準財政需要額算入見込額の減や充当可能基金の減により減少しており、将来負担額の減少幅を上回ったことから、分子全体は増加に転じプラスとなった。

今後多くの施設が大規模改修等の時期を迎えることから、各種事業の必要性や緊急性を見極めるとともに、地方債の発行額を公債費の元金償還額以内に収め、将来負担を減少させるとともに、将来負担の抑制に資する財政調整基金残高の維持に努める。

(11) 基金残高（東日本大震災分を含む）に係る経年分析（市町村）

(百万円)



(百万円)

区分	年度	R04	R05	R06
財政調整基金		6,438	6,434	5,170
減債基金		123	273	398
その他特定目的基金		2,629	2,942	2,948
廃棄物減量基金		607	653	703
公共施設整備基金		548	548	548
鈴木貫太郎記念館再建基金		358	433	514
鉄道建設基金		456	453	453
学校施設整備等基金		315	361	322
基金残高合計		9,191	9,649	8,516

令和6年度

千葉県野田市

基金全体

(増減理由)

減債基金が増加したことに加え、その他特定目的基金全体において、廃棄物減量基金や鈴木貫太郎記念館再建基金が増加したものの、財政調整基金が大きく減少したことから、基金全体として減少している。

(今後の方針)

公共施設の老朽化対策としての大規模改修や建替えなどの財政需要に対しても、柔軟で安定した財政運営を可能とするため、今後は対標準財政規模比20%の財政調整基金残高を維持した上で、公共施設整備基金の増強を図る。

財政調整基金

(増減理由)

社会保障関係費の増加や物価高騰、退職手当の増加などに対応するために財政調整基金を活用したことに加え、前年度決算剰余金の減少等により、積立額が減少したことから、基金残高が減少した。

(今後の方針)

公共施設の老朽化対策としての大規模改修などの財政需要に対しても、柔軟で安定した財政運営を可能とするため、対標準財政規模比20%を目標として増強を図ってきた。今後は大規模な普通建設事業に加え、公共施設の老朽化対策にも対応するため、当該基金の取崩しが見込まれるが、引き続き行政改革の推進による経費削減、ゼロベースでの事業見直しや新たな財源確保に全庁を挙げて取り組むことで、当該基金残高の対標準財政規模比20%の維持に努める。

減債基金

(増減理由)

国の令和5年度補正予算（第1号）に係る普通交付税の追加交付で措置され、減債基金に積み立てていた令和6年度の臨時財政対策債の元利償還金の一部を償還する分を取り崩したものの、国の令和6年度補正予算（第1号）に係る普通交付税の追加交付において、令和7年度及び8年度における臨時財政対策債の元利償還金の一部を償還するための基金の積立に要する経費が措置され、減債基金に積み立てたことから、基金残高が増加した。

(今後の方針)

平成28年度から29年度にかけて実施した小中学校及び幼稚園空調設備設置事業に係る地方債の償還が本格化していることから、減債基金の活用についても検討していく。

その他特定目的基金

(基金の用途)

- ・廃棄物減量基金
廃棄物の発生を抑制し、再利用を促進する施策を推進するための基金。
- ・公共施設整備基金
公共施設の整備の費用に充てるための基金。

(増減理由)

- ・廃棄物減量基金
啓発パンフレット作成やごみ分別促進アプリ、不法投棄監視システム関係費等に基金を活用したが、収集ごみ手数料等を原資とした積立額が取崩額を上回ったことから基金残高が増加した。
- ・公共施設整備基金
基金運用益の積立のみで取崩しを行っていないため、基金残高は横ばいの状況である。

(今後の方針)

- ・廃棄物減量基金
廃棄物の発生を抑制し、再利用を促進する施策を推進するため、引き続き基金の適正な活用を図る。
- ・公共施設整備基金
公共施設の老朽化対策としての大規模改修や建替えに備えるため、公共施設整備基金の増強を図る。